

東京渋谷で問いかける中津市の可能性

担当：総合政策課 田中（電話 0979-62-9031）
農政振興課 久保（電話 0979-62-9046）

中津市は令和4年7月より、東京・渋谷の共創施設『SHIBUYA QWS（渋谷キューズ）』（以下：QWS）に入会しました。QWS パブリックメンバー（自治体会員）として、市が抱える課題（問い）に対して、行政だけでなく、様々な主体のアイデア・ノウハウを取り入れながら、解決に向けて共に取り組む場として活用していきます。



SHIBUYA QWS（渋谷キューズ）とは



QWS は『渋谷から世界へ問いかける 可能性の交差点』をコンセプトに、渋谷スクランブルスクエア内に開設された共創施設です。首都圏の6大学（※）と連携しているほか、幅広い業種の企業が会員として参画しており、「出会う」「磨く」「放つ」をキーワードに、参加者それぞれが持つ問いを掛け合わせることで、新たな価値の創出や社会課題の

解決につながるプロジェクトを生み出す場となっています。

※東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京都市大学、東京藝術大学

中津市からの問いかけ

QWS は会員それぞれが掲げる“問い”を通じて、つながりやアイデアを生む施設です。中津市からも様々な“問い”を投げかけていきます。

■移住・定住の促進、関係人口の創出

- ・中津に行ってみたい、暮らしてみたい人を増やすには。

地方での暮らしの魅力の発信。移住地として選ばれるために必要なものは。

- ・都市部の人に中津と関わりや縁を持ってもらいたい。

都市部で暮らす人が地方のコミュニティ活動、地域課題の解決などに関わることで、地域と継続的なつながりを持つ機会を創出。



■体験型観光の推進

・中津でしか体験できないアクティビティをもっと観光振興に活かしたい。



・観光 × SDGs ～持続可能な観光振興～

未収穫農作物の収穫体験や、未利用食材を使った食の体験など、今ある資源を活用して、資源や観光の付加価値を高めたい。



■公共施設等の利活用

・公共施設を今以上に有効活用する取組み
 ・市内にある空き家、遊休施設の有効活用



QWS で生まれたつながりから事業化

Z世代と共に未収穫農作物を価値ある資産に ～サーキュラーエコノミー実証実験～

中津耶馬溪観光協会主催のモニターツアー実施にあたり、未収穫作物の活用方法をテーマにしたワークショップをQWSで開催。QWSコーポレートメンバー（法人会員）として当該ワークショップに参加していた味の素（株）Z世代事業創造部と共に、未収穫作物を商品化するサーキュラーエコノミー構築の実証実験が実現しました。この実証実験で加工された「竹の子の水煮」は大分県内のトキハインダストリーにて販売されています。



未収穫農作物で、
 おいしく未来を
 変えていく。

